

Multi LABELIST OCX ログファイル出力マニュアル

2014年2月10日

株式会社 サトー

はじめに

本マニュアルは、Multi LABELIST OCX(以下 MLOCX)のログファイル出力に関して述べたものです。MLOCX に関する詳細についてはリファレンスマニュアルを参照してください。また、本マニュアルはご使用になるユーザー様への閲覧用ではありません。管理者の方への運用マニュアルとなっています。

目次

はじめに.....	1
目次.....	1
1.ログファイル出力の準備.....	2
1.1 レジストリキーの設定.....	2
1.2 ログファイル名について.....	3
2.ログ詳細.....	4
2.1 ログ出力例.....	5
3 注意事項・その他.....	6

1.ログファイル出力の準備

MLOCX でログファイルを出力するには、レジストリを設定する必要があります。MLOCX インストール時にはログファイルは出力されませんので、手動で設定してください。

1.1 レジストリキーの設定

MLOCX を使用したアプリケーションを起動すると、下記のレジストリキーを生成します。

- Ver.4.2.0.2 より前のバージョン
HKEY_CURRENT_USER¥Software¥(C)SATO¥MLMECO~1¥Settings
- Ver.4.2.0.2 以降のバージョン
HKEY_CURRENT_USER¥Software¥(C)SATO¥MLV4¥MLMECO~1¥Settings

生成されたキーに以下の値を設定します。

- Log(DWORD 値) 0:ログファイルを出力しない
 0 以外:ログファイルを出力する
- Logfile(文字列値) ログファイルを出力するディレクトリ(任意)
 ドライブ直下はセキュリティ上、うまく動作しない場合があります。
 ログファイル用に新しいフォルダを作成して指定してください。



レジストリキー設定例

1.2 ログファイル名について

ログファイルはレジストリ「Logfile」で設定されたディレクトリに、以下のファイル名で作成されます。

MLmeControl*****.log (*****は任意の 16 進文字列)

MLOCX はコンポーネントベースなので、複数ロードされる可能性があります。同時に複数のログファイルを管理することもありますので、それぞれユニークなファイル名になるように振り分けられます。

同時にロードされた場合、ファイル名によって MLOCX の特定ができませんので、ログの内容によって判断してください。

2.ログ詳細

ログに出力されるタイミングは、各種の出力メソッドをコールした時になります。
出力メソッドは以下の通りです。

- ・ OpenPort メソッド
- ・ ClosePort メソッド
- ・ GetStatus メソッド
- ・ Output メソッド
- ・ Cut メソッド
- ・ SendCancel メソッド
- ・ ExOutput メソッド
- ・ ExOutputB メソッド

ログの内容は、タブ区切りで「コール日時」「メソッド名」「メソッドの戻り値」「パラメータ」が出力されます。

(例) 2014/1/1 12:00:00:000<tab>Output<tab>0<tab>C:¥My Documents¥test.mllay<tab>1

コール日時

YYYY/MM/DD HH:MM:SS:MMM

メソッド名

OpenPort、ClosePort、GetStatus、Output、Cut、SendCancel、ExOutput、ExOutputB

メソッドの戻り値

0 : 正常、0 以外 : 各メソッドのリファレンスマニュアルをご参照ください。

パラメータ

メソッド毎に関連する情報を、タブ区切りで出力します。

OpenPort	: Setting プロパティ、Protocol プロパティ、COMMode プロパティ
ClosePort メソッド	: なし
GetStatus メソッド	: ステータス文字列
Output メソッド	: LayoutFile プロパティ、PrnData プロパティ
Cut メソッド	: なし
SendCancel メソッド	: なし
ExOutput メソッド	: なし
ExOutputB メソッド	: なし

2.1 ログ出力例

ログファイルの出力例を示します。

```
2014/10/30 10:23:52:123<tab>OpenPort<tab>0<tab>COM1:9600,n,8,1<tab>Status3 <tab>RS-232C
2014/10/30 10:23:54:425<tab>GetStatus<tab>0<tab>69G000007
2014/10/30 10:23:55:095<tab>GetStatus<tab>0<tab>69G000005
2014/10/30 10:23:55:924<tab>GetStatus<tab>0<tab>69G000003
2014/10/30 10:23:56:671<tab>GetStatus<tab>0<tab>69G000001
2014/10/30 10:23:57:107<tab>GetStatus<tab>0<tab> A000000
2014/10/30 10:23:58:074<tab>Output<tab>0<tab>C:¥My Documents¥test.mllay<tab>1
2014/10/30 10:24:00:248<tab>ClosePort<tab>0
```

3 注意事項・その他

レジストリで指定したディレクトリが無効の場合（ディレクトリが存在しない、ディレクトリではない、書込み権限がない、ドライブ直下等）、ログファイルは出力されません。

ハードディスクの残容量などのチェックは行いません。お客様の責任で管理をお願い致します。

本機能は、デバック用としてご使用ください。実運用の際はログファイルを出力するモード（レジストリキーの設定）を OFF にしてください。実運用で本機能を使用した結果については、動作の保証はできませんのであらかじめご了承願います。

Win32 アプリケーション、Windows サービスではログファイル出力機能は利用できません。